

郷土の偉人を紹介するために、平成26年阿南市文化協会から「阿南市の先覚者たち第1・2集」が刊行されました。
阿南市の発展に尽力された人たちの偉業を顕彰し、後世に語り継ぐために、27人の先覚者たちを奇数月に掲載して紹介します。

徳島藩御用絵師

鈴木 鳴門

鈴木鳴門は江戸時代後期の絵師である。鳴門是那賀郡黒地村（現那賀川町）に生まれる。幼名は清治郎。子どもの頃より絵を描くことが得意で、画家をめざし江戸に赴き、1807年徳島藩の御用絵師鈴木芙蓉の弟子となった。後に芙蓉の実子が病でこの世を去ったため、またその才能を見込まれ、清治郎は芙蓉の養子となり、家督を相続することとなる。

1811年に、徳島藩第11代藩主蜂須賀治昭に画師として取り立てられ、三田の徳島藩邸内に居住、養父芙蓉に続いて御用絵師と

なった。鳴門は唐風の山水画や人物画の描写にすぐれ、藩御用絵師として多数の作品を残し、1840年に死去した。



鈴木鳴門作
「紙本墨画金砂子竹林図（仮名）」

画業一筋

清原 重以知

重以知は明治から昭和にかけての画家である。1888年に那賀郡大野村下大野に虎蔵・ウタの4男として生まれる。本名は重一。現在の富岡西高等学校を経て、1912年に現在の東京芸術大学西洋学科を卒業。在学中の1910年に白馬会展覧会に作品を出展以来、光風会や文部省美術展覧会、帝国美術展に出品を続けた。なお

帝展では第1回から無鑑査。1952年から日展に出品し、翌年から無鑑査となった。光風会では1958年から審査員をつとめている。画風は風景、花、家族をモデルとした人物画等幅広く巧みな筆致と鮮やかな色彩で表現した作品を多く遺し、大正、昭和の洋画の世界に確かな存在感を示した。
重以知は1971年東京杉並区の自宅でなくなった。享年83歳。



清原重以知自画像
「知命図」

次回(5月号)は「熊野正平」を紹介
します。

問い合わせ

文化振興課 ☎22-1798

令和6年度県南3市町合同企画展および講演会 「長国の埋蔵文化財 玖(9)阿波公方in阿南」開催のお知らせ

【展 示】 期間 3月16日(日)まで
9:00~16:30(月曜日、祝日は休館日)
場所 阿波公方・民俗資料館
入館料 おとな200円、中学生以下無料
主な展示資料 阿波公方が暮らした時代の
県南の遺物
【講 演】 日時 3月8日(土) 13:30~15:00(予定)
場所 那賀川図書館 視聴覚室

講演内容 「阿波公方」の価値
—武家の王「足利氏」の系譜—
四国大学文学部日本文学科教授
須藤茂樹さん(90分)
展示解説 阿波公方・民俗資料館の展示解説
向井、森脇
※講演終了後、阿波公方・民俗資料館に移動。
展示解説のみ入館料100円必要。

問い合わせ 文化振興課 ☎22-1798・FAX22-1282 e-mail:kyoubun@anan.i-tokushima.jp